

生田緑地におけるモンクロギンシャチホコ *Wilemanus bidentatus* (Wileman, 1911) の記録

横田光邦*・三田村瞬*

A record of *Wilemanus bidentatus* (Wileman, 1911) in Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki City.

Mitsukuni Yokota* and Shun Mitamura*

はじめに

モンクロギンシャチホコ *Wilemanus bidentatus* (Wileman, 1911) は宮城県を北限として、関東各県に分布し、栃木県 (末本, 2023)、群馬県 (ここにタン, 2020)、茨城県 (ogm, 2016) などの北関東から、東京都 (Genka, 2014)、埼玉県 (鈴木, 2014)、千葉県 (Takao, 2012) 等の南関東まで広範囲で記録があるが、神奈川県のみ記録がなく (中島・阪本, 2018)、隣接する静岡県には記録 (ニワカガマニア他, 2006) があつた。小田原市で 2022 年に記録された 1 ♀が県内初記録となる (岸, 2023)。その後、2023 年および 2024 年には伊勢原市でも成虫の記録があり (!family!, 2024)、分布の拡散が見られた。

筆者らが蛾類調査を行っている生田緑地で終齢幼虫を 2024 年に複数確認できた。神奈川県東部での記録は初めてとなり、幼虫を確認できたことから神奈川県内での生息を裏付ける発見となった。

採集記録

[多摩区]1ex. (終齢幼虫), 多摩区枳形, 12-X-2024, 三田村瞬確認; 2exs. (終齢幼虫), 多摩区枳形, 13-X-2024, 三田村瞬採集

筆者の 1 人である三田村は、生田緑地の中央広場に植栽されているシャリンバイ *Raphiolepis indica* (L.) Lindl. var. *umbellata* (Thunb.) H.Ohashi (1988) (バラ科 Rosaceae シャリンバイ属 *Raphiolepis*) を摂食する終齢幼虫を、夜間の観察で確認した。この時、採集はせずに現認のみであった。

翌日、筆者らは同一場所で昼間に再探索を行ったところ、追加で 2 個体の終齢幼虫を採集した (図 1)。この時、前日見つけた幼虫は再発見できなかった。

幼虫発見時、体を指で挟んだりして刺激を与えると、胸部腹面あたりからかなり強い酸を放出した。海外のシャチホコガ科 Notodontidae では防御手段として酸を出すことが知られていて (中村, 1998)、本種も出

すことが判明した。

これら幼虫は老熟していたようで、摂食することなく翌日には土中に潜り、1 個体は蛹化した。1 個体は蛹化に失敗し斃死した。羽化は今のところ確認できておらず、蛹で越冬するようである。



図 1. モンクロギンシャチホコ終齢幼虫

おわりに

本種の食餌植物はバラ科に限られ、ナシ *Pyrus pyrifolia* (Burm.f.) Nakai var. *culta* (Makino) Nakai (1926)、ザイフリボク *Amelanchier asiatica* (Siebold et Zucc.) Endl. ex Walp. (1843) (岸田, 2011)、ソメイヨシノ *Cerasus × yedoensis* (Matsum.) Masam. et S.Suzuki (1936) (杉, 1987) が知られている。筆者の 1 人である横田は、過去にバラ科のトキワサンザシ属 *Pyracantha* の一種、カナメモチ属 *Photinia* の一種でも幼虫を確認している。

インターネット情報によると、ボケ *Chaenomeles speciosa* (Sweet) Nakai (1929)、カリン *Pseudocydonia sinensis* (Thouin) C.K.Schneid. (1906) (川邊・前畑, 2024)、リンゴ (セイヨウリンゴ) *Malus domestica* (Suckow) Borkh. (1804), nom. cons. (ソナとヨナ, 2020)、イヌリンゴ (ヒメリンゴ) *Malus prunifolia* (Willd.) Borkh. (真, 2009) の記録も見られる。

食餌植物はバラ科モモ亜科 Amygdaloideae のモモ連 Amygdaleae とナシ

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

連 Pyraeae の広範囲に及ぶにもかかわらず、分布が局所的であることは、生態に関係があると推測される。2年前より分布拡大の兆候が見られており、インターネットでも記録が増えている。

筆者らは、2024年に神奈川県に隣接する東京都にて、葛飾区水元公園で成虫(1♂、1♀)、日野市多摩動物公園で亜終齢幼虫(2exs.)をソメイヨシノで確認している。川崎市の記録は東京都方面からの移動の可能性があると考ええる。

引用文献

- 岸一弘, 2023. (分布資料) 神奈川県におけるモンクロギンシャチホコの採集記録. p. 20, *In*: 神奈川虫報 第209号, 48 pp., 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 岸田泰則 (編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 II. 416 pp., 学研教育出版, 東京.
- 末本一己, 2023. 那須塩原市の蛾類II—シャクガ科〜ドクガ科—. pp.37-74, *In*: 那須野が原博物館紀要 第19号, 88 pp., 那須塩原.
- 杉繁郎 (編), 1987. 日本産蛾類生態図鑑. 453 pp., 講談社, 東京.
- 中島秀雄・阪本優介, 2018. チョウ目 (ガ類). pp. 702-831, *In*: 神奈川県昆虫誌 2018 III. 1038 pp., 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 中村正直, 1998. ヤガ科幼虫の頸腺とその分泌液の化学成分. p. 86, *In*: 蝶と蛾 49 (2), 146 pp., 日本鱗翅学会.

インターネット情報

- !family!, online. 丹沢山麓生き物探訪, 2024. <https://tanzawasanroku.com/mokuroku2/cho>

umoku/syachihokogaka/ (accessed on 2024-December-27).

Genka, online. 東京昆虫館, 2014. <http://tokyoinsects.web.fc2.com/lepidoptera/monkuroginshachihoko.html> (accessed on 2025-January-24).

ogm, online. 昆虫採集をもう一度, 2016. <https://yasou8.sakura.ne.jp/sanpo/kontyuu/kontyuu12/c562.htm> (accessed on 2025-January-24).

Takao Suzuki, online. KEI's 昆虫採集記, 2012. <https://insectk.web.fc2.com/kj/img/ma/monkuroginshachihoko12623.html> (accessed on 2025-January-24).

川邊透・前畑真実, online. 芋活.com, 2024. <https://www.imokatsu.com/imo-monkuroginshachihoko.htm> (accessed on 2024-December-27).

こにタン, online. グッドぐんま2, 2020. <https://blog.goo.ne.jp/gunma-daisuki/e/ae1882067f4d5a15be9097c557d9a00c/> (accessed on 2025-January-24).

真, online. 虫撮り散策記, 2009. <http://mushitori.jp/diary/0909/0901.html> (accessed on 2024-December-27).

鈴木淳夫, online. 狭山市の自然, 2014. <https://asuzuki-hm.sakura.ne.jp/hp2/insect/monkuroginsyachihoko.htm> (accessed on 2025-January-24).

ソナとヨナ, online. アカネコ生活, 2020. <https://akaneko.link/late-autumn-caterpillar202010/> (accessed on 2024-December-27).

ニワカガマニア・神保宇嗣・蛾 LOVE, online. みんなで作る日本産蛾類図鑑, 2006. http://www.jpmoth.org/Notodontidae/Wilemanus_bidentatus_bidentatus.html (accessed on 2025-January-24).